

パリだより：ユネスコ日本大使からの手紙（第10号）

「日本のユネスコ加盟 75 周年」

2025年7月1日

ユネスコ日本大使の加納です。

日本は各地で暑い日が続いているようですね。日本ほどではありませんが、パリもかなり暑いです。

今回は、日本のユネスコ加盟についてご紹介したいと思います。

（日本のユネスコ加盟）

日本のユネスコ加盟が承認されたのは、今から約74年前、1951年6月21日のユネスコ総会です。所要の手続きを経て同年7月2日に正式加盟しました。1956年の国連加盟に先立つこと5年、また同年9月8日のサンフランシスコ平和条約署名よりも約2ヶ月前の出来事です。第二次世界大戦後、日本が国際社会に復帰する第一歩がユネスコ加盟だったといえます。

ユネスコ自身、第二次世界大戦終結後の1945年11月にユネスコ憲章が採択され、翌1946年に発足したばかりでした。現在のパリ7区のPlace Fontenoyにある本部ビルが完成して移転する1958年まで、ユネスコ本部はパリ16区クレベール(Kléber)通り沿いにあるフランス政府所有の建物におかれていました。日本の加盟を決定した第6回ユネスコ総会もここで開催されています。



1946年から1958年までユネスコ本部が置かれていた建物

なお、この建物は現在はホテルになっていますが、ユネスコ本部移転後も、１９７３年のベトナム戦争終結後の和平協定、１９９１年のカンボジア内戦終結後の和平協定という、二つのパリ和平協定の調印の舞台になっています。

１９５１年６月２１日の第６回ユネスコ総会議事録によれば、この総会では、日本のほか、ドイツ、ベトナム、ラオス、カンボジアの計５カ国の加盟が審議されました。

この審議に出席するため、日本からは、前田多門・日本育英会会長（前文部大臣）を首席代表とし、徳川頼貞・参議院外務委員会委員長、原田健・日本国際連合協会常任理事、藤山愛一郎・日本ユネスコ協会連盟会長、萩原徹・在パリ日本政府在外事務所長らからなる代表団が出席しました。

まず、総会に先立ち５カ国の加盟申請を検討した執行委員会議長より、報告がなされました。日本については、１９５０年１２月１５日に日本政府より、（当時まだ連合軍の占領下にあったため）連合軍最高司令部の承認を経た上での加盟申請がユネスコに対してなされたこと、ユネスコと国連の協定に従い加盟申請が国連経済社会理事会に伝達され、同理事会より異論がなかったこと、これを受け、ユネスコ憲章に従い、日本の加盟を認めることを総会に勧告するとの執行委決議を採択したことが報告されました。

その後、総会議長より各国の加盟を承認する決議案を順次審議することが宣言され、審議は申請順に、ラオス、カンボジア、ベトナム、日本、ドイツの順番に行われました。

４番目に行われた日本の加盟承認決議案では、２カ国が発言を求めました。

最初に発言したフィリピン代表からは、第二次世界大戦中に甚大な被害を受けたフィリピンの厳しい対日感情と、フィリピンが求める日本の国際的義務を定める条約が締結されていない現状では本決議案に遺憾ながら反対せざるを得ないとの発言がありました。戦中に１００万人以上の死者を出したフィリピンには当時まだ厳しい対日感情が残っており、この後、締結されることになるサンフランシスコ平和条約でも対日賠償条項を含めるよう最も強硬に主張していたので、このような発言に繋がったといえます。一方、同代表からは、日本とフィリピンは隣人であり、個人的には、過去の出来事について忘れるだけでなく、許すこともできるとの発言もありました。

次に発言を求めたパナマ代表からは、フィリピン代表の意見を尊重するとしつつも、平和と国際理解のためにこの会議に集まった我々は、ユネスコの理念を推進しなくてはならない、すなわち、戦争による恐怖、怒り、復讐心を忘れ、世界平和に不可欠な友愛と連帯の精神を、一般市民のみならず指導者の心の中に植え付けていくべきである、それゆえに日本のユネスコ加盟に賛成するとの意見が表明されました。

その後投票に移り、賛成42カ国、反対1カ国（フィリピン）、欠席15カ国で、日本のユネスコ加盟承認の決議案は採択されました。

決議採択後、日本の前田首席代表が演説を行い、参加各国に日本の加盟承認への謝意を述べつつ、ユネスコの精神は民主国家、平和愛好国としての日本の再建の指針でなくてはならず、日本国内では1947年からユネスコ関連の活動が始まっていることに触れました。その上で、加盟が承認されたこの機会に、日本として、ユネスコ憲章の義務を果たし、ユネスコの活動推進に全面的、積極的に支援、協力していく所存であることを表明しました。前田首席代表はまた、かつて国際連盟事務局次長として、ユネスコの前身である国際知的協力委員会に携わった故新渡戸稲造博士の国際精神の涵養の足跡に触れ、日本として東西の文化交流の推進にも積極的に取り組む意欲を述べました。

ユネスコ総会の後、ロンドンに赴いた前田首席代表は7月2日に受諾書を寄託してユネスコ憲章に署名、これによって日本は正式にユネスコの加盟国になったのです。

（ユネスコ加盟75周年記念レセプション）

日本のユネスコ加盟から75年目の節目の年に入ったことを受け、6月24日、パリ日本文化会館において「日本のタベ」レセプションを開催しました。ユネスコ事務局、各国代表団、パリ在住日本人、日仏文化交流関係者など約150名に参加して頂きました。

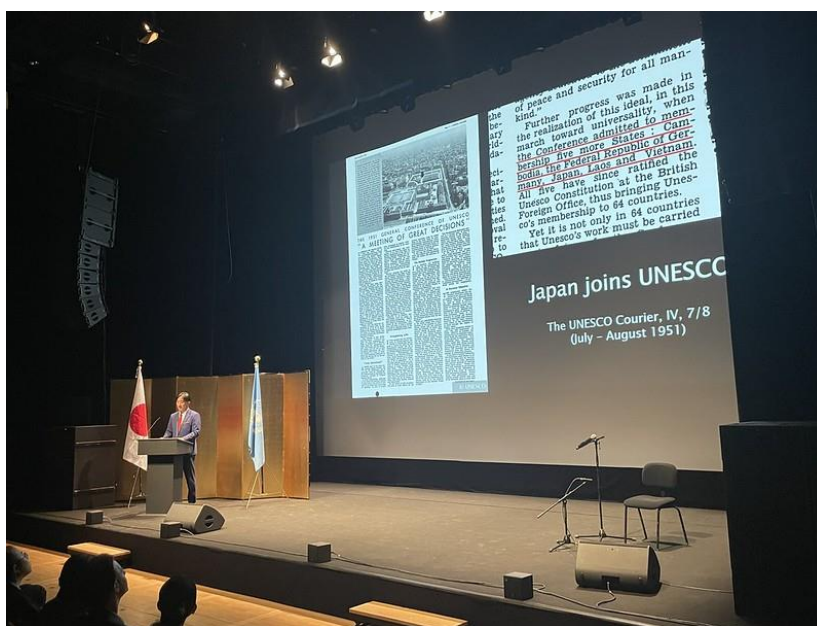
オープニングは、フランス出身でギター奏者から転じて津軽三味線の名取になった澤田春吟さんの素晴らしい演奏から始まりました。続いて、日本の加盟が認められた1951年6月の第6回ユネスコ総会の模様を紹介した、ユネスコ・アーカイブ所蔵のショート・フィルムを上映しました。この映像は、以下のリンクから観ることができます。

<https://www.unesco.org/archives/multimedia/document-1714>



澤田春吟さんによる津軽三味線演奏（左）と第6回ユネスコ総会の模様を紹介したショート・フィルム（右）

その後、私からスピーチを行い、1951年の日本のユネスコ加盟が、1956年の国連加盟に先立つこと5年、同じ年のサンフランシスコ平和条約締結による主権回復にも先立って行われたことに触れ、日本にとってユネスコ加盟が戦後の国際社会復帰の第一歩を意味していた旨述べました。その上で、以来75年間、「人々の心の中に平和のとりでを築く」とのユネスコ憲章の精神を支持する日本は、一貫してユネスコを支えてきたこと、今後ともそうであり続ける決意であることを述べ、教育、科学、文化、コミュニケーション・情報といったユネスコの活動全般にわたる日本の取り組みを紹介しました。



私のスピーチ全文はこちらでご覧いただけます。

<https://www.unesco.emb-japan.go.jp/files/100866783.pdf>

また来賓として、ベラ・ラコユ執行委員会議長、シン・クー事務局次長がそれぞれ挨拶を行い、ユネスコに対する長年の日本の貢献を讃えてくれました。



ベラ・ラコユ執行委員会議長（左）及びシン・クー事務局次長（右）による挨拶

その後、パリ日本文化会館最上階に移動し、テラスからセーヌ川を臨みつつ、ユネスコ無形文化遺産でもある和食、日本酒を楽しみながらの歓談に移りました。

加えて、今回は、日仏茶道協会会長の森宗勇さんほか茶道関係者の方々より、パリ日本文化会館の茶室にてお点前を披露して頂きました。



テラスでの懇談（左）と森宗勇さんほか茶道関係者による御点前（右）

日仏文化交流に長年携わってこられた森さんのご縁もあり、今回のレセプションには、フランスの旧王族オルレアン家のアングレーム公ご夫妻や、エッフェル塔の建設者ギュスタヴ・エッフェルの子孫のサヴァン・イートマン・エッフェル氏ご夫妻など、多彩な来賓にお越し頂きました。アングレーム公ご夫妻や、ラコリュ執行委議長、シン・クー事務局次長とともに私も抹茶とお菓子を堪能しました。

この日のために、森さんには日本から様々な道具をお持ちいただきましたが、中でも目を引いたのが、「万民共和」と題した掛物です。サンフランシスコ平和条約全権委員として日本の国際社会復帰に尽力した徳川宗敬伯爵の揮毫によるものです。

茶の湯は、16世紀の戦国時代に束の間の心の平安を求める武将の間で広まりました。茶の湯には、「心の中に平和のとりでを築く」との現代のユネスコ憲章の精神に通ずるものがあるに違いないと思いつつ、一服を頂戴したところです。



徳川宗敬伯爵揮毫の「万民共和」の掛物

最後までお読み頂き、ありがとうございました。

次回のパリだよりをお楽しみに。

ユネスコ日本政府代表部大使

